日本経済新聞

ベトナムで塗装受託参入

大橋鉄工、部品さび止め

自動車部品製造の大橋鉄工(愛知県北名古屋市、大橋雅史社長)はベトナムで塗装加工の受託事業に乗り出す。現在は自社製品の加工にとどまっているが、現地に進出する日系メーカーから部品のさびを防ぐための塗装加工業務を受託。他社向けの業務を手がけることで設備の稼働率を高め、コスト改善につなげる。

同社は今年1月、約8億円を投じて、ハノイ近郊にある工業団地内に工場を新設した。日本から輸出した丸棒を現地で加工し自動車用アクセルペダルを生産。デンソーに供給している。新工場は丸棒加工のほか、さびを防ぐための「カチオン塗装」と呼ばれる加工を施すラインも整備。自社で一貫生産できる体制を整えた。

国内ではカチオン塗装に当たるメッキ塗装は外部委託。ベトナムでは塗装加工を手がける企業が少ないという。ハノイ周辺に進出している日系部品メーカーでも、遠隔地に部品を送り塗装処理しているケースも多く、物流を効率化したい日系メーカーの需要が見込めると判断した。

すでに複数の日系企業から引き合いがあるといい、日本貿易振興機構(ジェトロ)が10日から現地で開く「ハノイ部品調達展示商談会」にも出展する。駐在員や商工会などを通じて情報収集し、日本の営業部隊と連携して受注活動を進める。

(亀井勝司)